

発行所 日本余暇学会 発行人 藺田碩哉 発行日 平成19年10月31日

# 日本余暇学会ニュース

第60号

日本余暇学会事務局  
〒191-0016  
日野市神明1-13-1  
実践女子短期大学  
生活福祉学科  
藺田研究室内  
TEL/FAX 042-584-5428  
e-mail  
yokagakkai@mail.goo.ne.jp  
Home Page  
<http://www5d.biglobe.ne.jp/~d-pal/yoka/yoka.htm>

## 第11回研究大会

### 盛況におわる

第十一回日本余暇学会研究大会が、九月八日、九日にわたって、東京・四谷の上智大学構内で「江戸の余暇を探る」をテーマに開催された。大会両日は残暑厳しい日和であったにもかかわらず、多数の参加者がかけつけ、三十度を超えた屋外の気温にも引けをとらないほどの熱い議論や研究発表が行われた。そこで藺田碩哉会長に、この熱き大会の総括をしてもらった。



第十一回研究大会は大江戸ゆかりの紀尾井町（紀州藩、尾張藩、井伊家の屋敷があった）に位置を占める上智大学で行われ、日本人の余暇の原点ともいえるべき「江戸の余暇」の実相とその意味づけを問い直した。

冒頭の基調講演は、歴史家としての手堅い文献研究と、一般読者向けの啓蒙的な読み物の両翼で活躍される山本博文教授の「將軍たちの余暇」。支配層の余暇の興味深い実態を押し上げた上で、シンポジウムは一転して江戸庶民のバラエティ豊かな余暇の有りに迫った。園芸学から関心を広げて娯楽研究に至った青木宏一郎氏、庶民の旅日記を読み解いて、江戸期の旅の、思いの他の豊かさを再現してくれた金森敦子氏、それに学会の江戸学グループ・中藤保則、荒井魏氏が絡んで、庶民の日常生活、旅行、娯楽、さらにはその背後にある生活観や倫理の問題に迫った。大会に交流プログラムは欠かさないが、今回はこれも「江戸余暇のタベ」と題



して、はとバスで日本橋から銀座、新橋へ、江戸の下町の骨格を巡り、ホテルでは江戸の剣戟を楽しむショーに忍者のコントや「つまみかんざし」づくりの実演が加わり、実践付き学会の面

目躍りであった。さらには二日目の特別発表では、武家の隠居（二〇〇七年問題）も示唆するところがあったと、

江戸の身体文化・蹴鞠に関する実証的な研究発表が加わって、さらに視点を広げると共に、江戸の余暇学を体系化する方向性を藺田が提起して幕となった。今回出されたさまざまな資料や論点を整理して、江戸という時代と「余暇」との深い関係を浮き彫りにする作業が今後の課題となろう。

一般発表では、子どもの遊びから高齢者の余暇まで、生涯学習、ボランティア、観光などの余暇の諸側面をめぐる幅の広い話題が提供されたのは例年の通りだが、今回は実践団体である日本余暇会との共同で「余暇力検定」の実現性を探る問題提起があつて注目を集めた。

今回、新理事の選出があつて、役員体制が強化され、理事の分担制や委員会の編成など、学会の機能を高める新政策が打ち出された点



も特筆されるべきであらう。学会協議の協力団体の指定を受ける準備が進んでいることも報告された。この大会を期に、従来のサロン型の運営を二歩も二歩も広げて、研究団体にふさわしい仕組みと活動を充実させていくことが期待される。

（藺田）

#### 今号の紙面から

2. シンポジウム総括  
新入会員紹介
3. 新役員紹介  
会長・理事アンケート
4. 「余暇学研究」情報  
図書紹介、原稿募集

# 大会シンポジウム

## 江戸庶民の生活感と余暇遊び

### シンポジスト総括

中藤保則

大会第一日目のメインイベント、シンポジウムは、「江戸庶民の生活感と余暇・遊び」というテーマで行われた。ゲストシンポジストに青木宏一郎氏（ランドスケープカーディナー）、金森敦子氏（エッセイスト・江戸の旅研究者）を迎え、日本余暇学会からは荒井魏理事（良寛の研究者）、中藤保則理事（「江戸の余暇学」提唱者）がシンポジスト、蘭田碩哉会長がコーディネーターとして参加した。この個性的なメンバーが「江戸の余暇観」の論議を行い、さらに客席との質疑応答と二時間半以上にわたってシンポジウムが続いた。

上智大学一七五教室は、全員が制限時間をオーバーしていることを忘れるほどの大盛況であった。以下にシンポジストの一人、中藤理事による「シンポジウム総括」を掲載する。参加できなかった会員にも、この熱いシンポジウムの「余熱」を楽しんで欲しい。

個人的な感想、まし テーマにふさわしく、てシンポジストを務め 豊富な知識をもとに果た身としては、まった しいお話をしてくださったく独りよがりの感想で たことが大きいと思われ。あることは承知してい

るが、今回のシンポジウムは実に楽しかった。コーディネーターの蘭田碩哉会長がシンポジストの紹介、「なぜ今、江戸の余暇か、江戸か

ら何を見つけて出したいのか」という趣旨説明を行い、続いて4人のシンポジストがそ

れぞれの「私の江戸」と題して、「なぜ江戸に惹かれるか」を語った。

さらに本題に入っ て、「江戸庶民の日々の暮らし」として、江戸という大都市の特殊性と「庶民の衣食住、暮らしぶり、生活の楽しみ」などを中藤が核になって話しを進めた。

続いて「江戸庶民の娯楽」がテーマになったが、核となった青木宏一郎氏は、ランドスケープカーディナーの立場から、「園芸から漣まで、多彩な江戸庶民の娯楽生活」を語った。

そこで浮かび上がったのは、意外なまでの江戸っ子の精神的なゆとりと、それがもたらす遊びである。次に登場した金森敦

子氏はエッセイスト・江戸の旅研究者として、「旅の様相、女性の旅」について語り、伊勢参

の死世観、余暇・遊び観について論じた。

続いて自由討 議が行われたが、会場からの質問、意見が相次ぎ、活発な論議が展開されたと考えられている。シンポジウム開始前の打ち合わせで、蘭田コーディネーターが、シンポジストの発言にも積極的に関わり、自分たち自身が大きいに楽しもうという「方針」を示した。それが



ゲストシンポジストのお人柄とも相まって、楽しく活発な論議に結びついたものと思える。最後に蘭田会長が、まとめとして「今日浮かび上がったきた江戸の余暇の知見を、

りに代表される江戸時代の旅が、一大娯楽であったこと、そして鶴岡の豪商の奥方が記した道中記をもとに、その驚くべき豊かな旅を

紹介した。しんがりを務めた荒井魏理事は、良寛などの研究を土台に、庶民の死世観、余暇・遊び観について論じた。

### 新入会員

- 中溝一仁  
立教大学大学院生
- 伊藤治幸  
青森県立保健大学
- 大木潤子  
城西国際大学

### 会費納入のお願い

平成19年度学会費未納の方は、郵便局にて納入ください。

口座番号: 00140-9-729065

加入者名: 日本余暇学会

二十一世紀にどのような生活かすが我々に課せられた使命ではないか」と結んで、百五十分ものシンポジウムは幕を閉じた。(中藤記)

# 新役員紹介

九月八日に行われた「日本余暇学会総会」において、平成十九年度の新役員が選出された。会長に園田碩哉、副会長に中藤保則、顧問には石川弘義に加え、前会長の瀬沼克彰を選出、会計監事には飯坂徳雄、山岡平三を再任した。さらに新任、再任を含めて十二名の理事を選出した。新役員は平成二十一年総会までを任期とする。

そこで編集部は、選出された会長・副会長と理事にアンケートを実施、各人から以下のような回答を得た。

## 【会長・理事への質問内容】

- ①氏名（読み仮名）。②担当業務を教えてください。
- ③研究分野、取得学位、実践内容などを教えてください。
- ④この一年、理事としてどのような取り組みをしますか。
- ⑤もしスポンサー付きで百八十日間の休暇が取れたらなにをしたいですか。
- ⑥会員の皆様へ一言。

## 会長

①園田 碩哉（そのだ せきや）

②会長：火付け役でありまじめな役であり、よい意味のマッチポンプたることを目指したい。

- ③余暇論、遊戯論。「レク運動史研究」で体育科学博士を取ったばかり。実践活動としては「コミュニティの余暇活動、自然の中で子どもを育てる幼児園運動など。」
- ④学会の体質改善、研究団体としての機能強化。
- ⑤前半の九十日間で世界一周。後の九十日間で世界余暇旅行記を執筆。
- ⑥余暇のある暮らし、忙しい

くない毎日を楽しみましょー！

## 副会長

①中藤 保則（なかふじ やすのり）

②副会長、中部ブロック担当

- ③余暇考現学、江戸の余暇学などと口走りのつ、最近佐久の地域文化、中山道、道祖神、郷土芸能などを調べるはめに陥って、頭は混乱から錯乱へと進んでいる。
- ④あまりお役にたてそうにない。将来の信州・佐久での研究大会に備える。
- ⑤イスロマニア（島狂い）として、南の島をうろつきたいが途中で頓挫している

## 理事（五十音順）

①有馬 廣實（ありま ひろみ）

- ②研究担当
- ③生涯学習、食と健康、博物館、青少年の国際理解教育
- ④関連学会や団体の特徴の理解と、それらとの交流への積極的参加
- ⑤世界の博物館（特に食と健康の博物館、美術館を巡りたい）

⑥余暇学に関しては初心者です。「まあ、それもヨカたい！」として受け入れていただければありがたく存じます。宜しくお願いいたします。

①杉座 秀親（すぎざ ひでちか）

- ②東北・北海道ブロック担当、研究担当
- ③余暇のメディア史に関心をもっており、調べています。
- ④上記の関心を学会の研究分野として定着させたい。
- ⑤二ヶ月間余暇活動した後、残りの一ヶ月で新たなスポンサーを探し、さらなる休

暇の継続をめざす。

## ①高橋 進（たかはしすすむ）

②関東ブロック担当、編集委員

- ③国内外の自然保護政策や自然と地域社会との結びつきに関する研究などです。
- ④自然の中で余暇を考える機会を会員の皆さんに提供するための企画（関東ブロック）をぜひ実現したいと思
- ⑤まずは、自然の中でのんびりしたいです。しかし、きつとじつとしてはいられず、他の人がどのような意識や行動するかを調査してしまおうでしょうね。
- ⑥究極の余暇は、何もしないことではないかと思

「自然の中での長時間滞在」について調べました。それがご縁で、余暇学会に入会した次第です。本当はのんびりとしたのですが、いろいろ頼まれると断れな

て、忙しくて余暇もありません。

①辰 巳厚子（たつみあつこ）

- ②事務局長
- ③余暇生活学、生涯学習論、余暇学研究、生涯学習調査研究、地域講座講師、課題解決ファシリテーターなど
- ④スムーズな学会運営と若手新規会員のサポートに取り組みたいと思います
- ⑤『街道をゆく』を携え、その行程を巡りながら、日本人の生き方を考えてみたい。
- ⑥パテランの前任者から事務局長を引き継ぎました。至らない点もあるかと思いますがよろしくお願い致します。

## ①師岡 文男（もろおかふみお）

②今年度学会大会実行委員長、渉外担当

- ③レジャー・レクリエーション学、生涯スポーツ学、野外教育学、ウエルネス研究、体育学修士。レクリエーション全般に関する研究、調査、授業（理論・実技）、講習、講演
- ④日本レジャー・レクリエーション学会など関連学会・団体との交流、事業提携等
- ⑤アメリカの「公園レクリエーション区」制度の調査とフランスにかつてあった「余暇時間省」の調査に使
- ⑥さまざまに団体に関わっているため、「八方ふす」なのが欠点です。何卒よろしくお願いいたします。

①中村 茂徳（なかむらしげのり）

- ②九州・沖縄ブロック担当、研究担当
- ③英国文化史、ツーリズム学、外国語学修士、自然地的社会的価値についての調査。
- ④余暇力検定の実施。
- ⑤英国湖水地方で、ナショナル・トラスト資産を中心に、観光と余暇の持続性に関するデータを集めたい。
- ⑥今年から福岡の自宅に帰り、生活が一変。体力勝負

①山本 存（やまもと やすし）

- ②近畿ブロック担当、編集委員
- ③レジャー・レクリエーション学、スポーツ社会学、教育学修士。子ども・障害者の余暇・レクリエーションに関する研究、調査など。授業（トレーニング論・スポーツ科学実習、レクリエ

ーション学、スポーツ社会学、教育学修士。子ども・障害者の余暇・レクリエーションに関する研究、調査など。授業（トレーニング論・スポーツ科学実習、レクリエ



シヨ論・レクリエーショ  
ン実技など。地域レクリ  
エーションイベントへの参  
画、レクリエーション講習  
など。

④日本余暇学会の会員数を  
増やしていくためにはどの  
ようにすればいいのか考え  
ていく。

⑤外洋ヨットで転々と島巡  
りをして、いろいろな文化  
にふれてみたい。

⑥はじめてお仲間に入れさ  
せていただきます。よろ  
しくお願いたします。

①「山田貴史」(やまだ  
たかし)  
② ニュースレター編集、  
広報担当

③ スポーツ史、公営競技  
史(特に競輪)。博士(体  
育科学)、修士(人間科学)。  
④ 「明るく楽しい余暇学  
会」作り、余暇学会ファン  
を増やすこと。

⑤ 日本各地の公営競技場  
を巡り、スポンサー付きな  
ので湯水のように浄財を賭  
ける。

⑥ 会員、非会員のかたに  
わかりやすく情報を伝えて  
いきたいと思えます。原稿  
執筆などニュースレター制  
作にご協力ください。

☆期限までにアンケートに  
ご回答いただけなかった理  
事は、以下に氏名のみ掲載  
します。  
荒井魏、福田峰夫

『余暇学研究第十一号』  
編集情報

『余暇学研究』第十一号  
のエントリーは九月二十日  
に締め切りました。

エントリー数は十二本、  
そのうち二本がエッセイで  
す。総説、原著論文、研究  
ノートか否かは原稿到着  
(十月末)を待って審査し  
ます。エントリーを希望し  
た方の投稿をタイトル・概  
要を審査した結果、全て承  
認し、現在、それらの審査  
が編集委員会に進められ  
ています。

『レジャー白書』  
二〇〇七

(財)社会経済生産性本部  
は七月、『レジャー白書2  
007 余暇需要の変化と  
ニューツーリズム』を発行  
した。今年度白書の概要は  
以下の通りである。

①日本人の余暇活動の現状

図書紹介

日本余暇学会が再開から十周年を迎えた昨年、記念事業として行った、論文「私の余暇実践」コンクールには多数の手記や論文が寄せられた。このたび、これらの手記や論文をまとめた本が出版された。「私の余暇実践」をテーマに原稿を募集したところ、全国から10歳代から90歳代高齢者まで、208の作品が寄せられた。その中から中高年以上の男性の作品を47点を集めたのが本書である。作品は「余暇の考え方と設計」、「スポーツ、レクリエーション」、「趣味・創作」、「生涯学習」、「ボランティア、コミュニティづくり」などに分類され、「まだまだこれから」という、新しいライフスタイル創造の様子が浮かび上がる。中高年だからといって老け込まず、楽しく、積極的にはつらつと生きる姿を垣間見ることができる。シニア先達の叢智と弛まざる挑戦に、まだまだ人生は長いと実感する一冊である。



瀨沼克彰編  
『超団塊世代の  
余暇哲学と実践』  
日本地域社会研究所、  
2007年8月、  
本体2400円(税別)

へんしゅうのあと  
および原稿の募集  
研究大会が嵐のように  
過ぎ去り、研究の季節が  
やってきた。当方も資料  
のデータベースづくりを  
始めたいと考えている。  
さて、今号では会長と  
理事に登場してもらい各  
人の「主張」を若干述べ  
てもらった。今後は会員  
の皆様方にも、ぜひ紙上  
に登場していただきたい。  
そこで今回は先述した  
『レジャー白書二〇〇七』  
をベースに会員各位の研  
究領域と絡めて、発言を  
求めたい。テーマは「レ  
ジャー白書にみる〇〇」例  
えば「レジャー白書にみる  
公営競技の将来像」など。  
字数は八百〜千二百字、結  
め切りは十二月二十日と  
します。余暇学会事務局まで  
メールまたは郵送でお送り  
ください。なお、採否は編  
集部で決定、発表は紙上掲  
載に代えます。  
またニュースレター等に  
関し、ご意見、ご希望など  
がありましたら、同様に事  
務局にお送りください。(山)

政府統計では長期の景気  
回復がみられるが、平成十  
八年も余暇活動参加人口の  
回復は鈍かった。だが、新  
機種が発売が続いたテレビ  
ゲームは、参加人口の大幅  
回復がみられた。日常的で  
比較的単価が安く、手軽な  
タイプのレジャー(トラン  
プ、ジョギング、外食など)  
の回復もみられた。しかし  
観光・行楽の回復は鈍く、  
ガソリン代の高騰なども影  
響したようだ。  
②余暇関連産業・市場の動  
向  
平成十八年の余暇市場は  
前年一・六%減少し七八兆  
九千億円。中でもパチンコ  
業界が不振。ジャンル関  
係を除く余暇市場の規模は  
横ばい。趣味・創作部門で  
はカメラ、液晶テレビ、音  
楽配信、映画等が好調で、  
テレビゲーム関係は絶対調  
であった。国内航空や海外  
旅行に回復の兆しがあるが、  
旅館業や乗用車市場は減少。  
③特別レポート く余暇需  
要の変化とニューツーリス  
ム  
テーマ性や体験志向の強  
い新たな旅のかたちをニュー  
ツーリズムというが、昨  
今、旅行スタイルも、  
「通過型」「団体型」の  
物見遊山の旅行から、  
訪れる地域の自然・生活  
文化・人とのふれあいを  
求める「体験型」・「交  
流型」・「個人型」の旅  
行へと変化している。長  
期滞在型旅行、エコツー  
リズム、グリーン・ツー  
リズム、文化観光、産業  
観光、ヘルスツーリズム  
などが新たな市場への突  
破口として期待される。